

MSC メラビア・地中海クルーズ(その 8)

事務局長 池田良穂

バルセロナ港の次の寄港地はフランスのマルセイユ港でした。筆者にとっては思い出の港です。まだ学生だった頃、ヨーロッパの港町を3週間にわたって巡りましたが、その時に夜行列車に乗ってマルセイユの駅に降り立ちました。就航間もなく航路廃止となった関東～関西間の長距離フェリーであるセントラルフェリーのうちの2隻が売られて、マルセイユとアルジェリアの航路に就航していると聞いて、ぜひとも一目見たいと思ったからです。もう50年も前の話です。

その頃、マルセイユの町は主要産業の海運業が衰退していて、アルジェリアからの移民で溢れていて、かなり汚い港町でした。旧港の入口が新港にあるフェリー基地への入口でもあったので、朝から晩まで突堤の先端で待機して出入りするフェリーを眺めたのを思い出します。沖合に浮かぶ監獄の島は、巖窟王の構想の地でもあり遊覧船で訪れました。

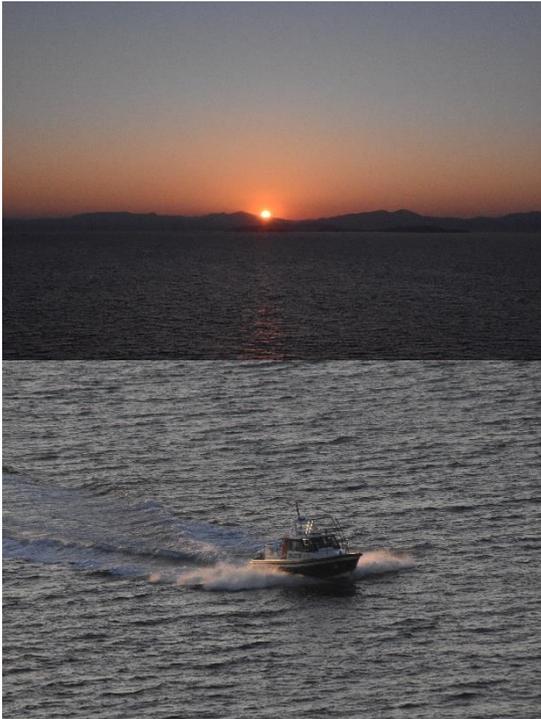
こんな思い出の港町を久しぶりに訪問するので、大いに期待をしての入港でした。最近ではクルーズ客船の寄港地として、また地中海の島々への定期フェリー、そして地中海を横断してアフリカ大陸を結ぶ航路の定期フェリーの発着港としても不動の地位を築いています。

「MSC メラビア」は8時にマルセイユの港に入りました。ここの港は小さな入り江から始まり、ここは今では旧港と呼ばれて小型ボートとヨットの基地になっており、たくさんの遊覧船も発着しています。そして大型船の港は海岸線に沿って長く伸びる防波堤の内側に東西に広がっています。クルーズ客船の施設が、この新港の西の入口近くに整備され、大型クルーズ客船が4隻同時に着岸可能になっています。市街地からはかなり遠く、有料のアクセスバスも出ていましたが中心街まで30分という説明がありました。

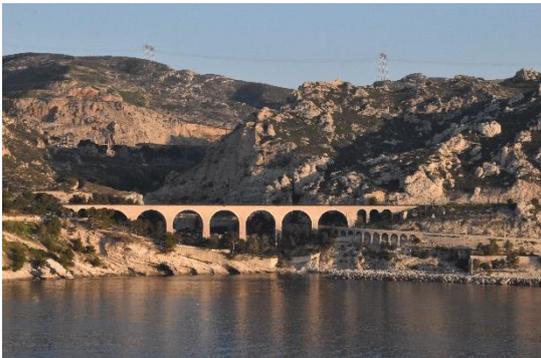
「MSC メラビア」が入港した時には、8隻のフェリーが新港内に停泊しているのがAIDデータで確認できました。しかし、彼女たちの全ての姿をカメラに収めるのはなかなか難しそう。しかし、まずはトライしてみることにしました。まず旧港までタクシーで走ってもらって、その車窓から何隻かのフェリーを撮影することができました。次に旧港からでる遊覧船に乗ることを考えましたが、そのルートを観ると新港は廻らないことがわかりました。そこで、旧港に新しくできていた観覧車に乗って、上空からフェリーターミナルを狙うことにしました。こうして7隻のフェリーの姿を撮影することができました。

さて、旧港一带は観光地化されて綺麗になり、魚介類料理を食べさせるレストラン等が並んでいました。その一軒で、名物のブイヤベースに舌鼓をうって帰船しました。そして船上からドック中の最後の1隻の撮影もできました。

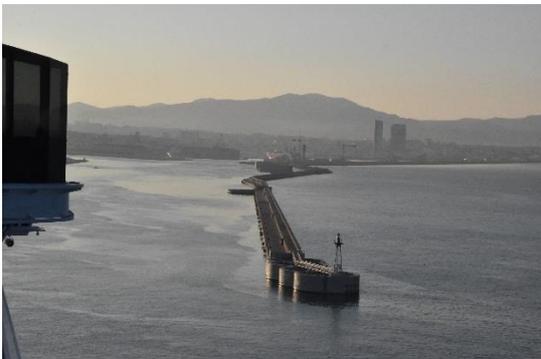
17時に出港時に、バルセロナのようにフェリー等に出会うかと期待をしていましたが、残念ながら皆無でした。



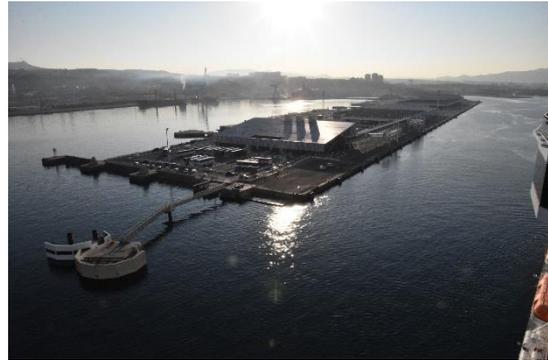
① マルセイユの港に入る前に朝日が昇り、パイロットボートがやってきました。



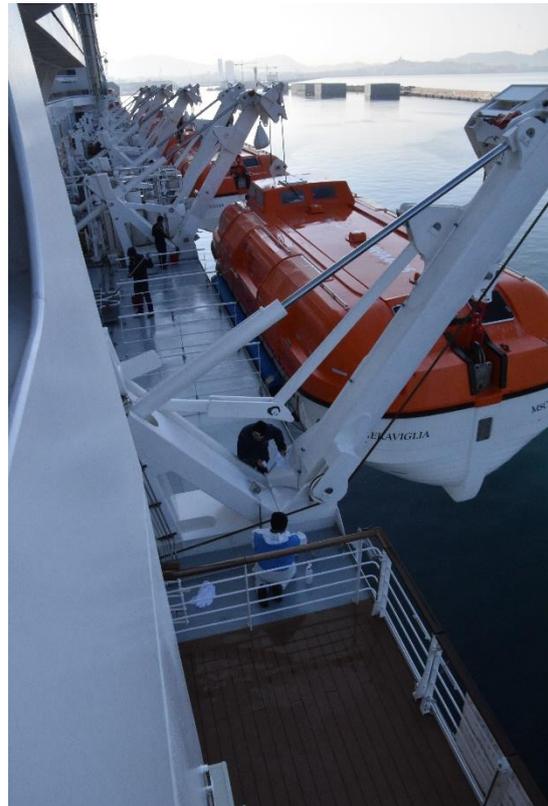
② 港に入る前に岩山に綺麗な橋が見えました。



③ 新港の西の入口から入港しました。



④ 港に入ってすぐの場所に巨大なクルーズ施設が整備されていました。



停泊中に救命ボートの整備がされていました。



⑤ また船体塗装の補修が行われていました。



⑥ 旧港までタクシーに乗って、車窓から新港に停泊するフェリー群を撮影しました。



⑦ 続いて旧港にある観覧車で回りながら、新港内の客船の撮影しました。



⑧ MSCメラビアのデッキ上から、ドック中のフェリーの姿が確認できました。これで在港する全てのフェリーをカメラに収めることができました。



シップウォッチングとは離れますが、旧港の魚介類レストランで南仏名物のブイヤベースを楽しみました。